

## 第4章

# 授業づくりの指導

「教師は授業で勝負をする」といわれるように、授業は、生徒指導、学級経営の中心となるものです。ここでは、「授業見学」「学習指導案の作成」を中心に授業を実施する前の準備段階における指導について紹介します。

# 1 授業見学を指導する際のポイント

## 授業見学の意義

現職の教員にとっても、他の教員の授業を見学することは、優れた指導技術を学んだり、自らの授業を振り返ったりする中で、自分の指導力の向上が図られるとともに、自分の授業以外の場面での児童生徒の学習の状況を把握することができるなどの意義があります。

このため、各学校においては、授業改善に向けて公開授業や授業研究等の取組が積極的に行われています。

特に、教育実習においては、次のような意義があげられます。実習生にしっかりと授業見学の意義を伝え、授業見学に臨ませることが大切です。

- 授業を構想する
- 児童生徒の実態を把握する
- 先輩教員の指導技術から学ぶ
- 授業を見る視点を養う

また、現職の教員の授業だけでなく、他の実習生の授業を見学させることで、互いに刺激を与え合い授業づくりに対する意欲を高めさせることができます。

さらには、専門とする教科以外の授業を見学させることで、自分の教科の特性に対して確認をさせるとともに、教科内容を効果的に習得できるようにするための指導技術（発問や指示、板書、机間指導、資料提示など）について学ばせることができます。特に、この点は、中学校・高等学校での実習においては有効であると言えます。

このほか、ただ見学させるのではなく、TT形式のT2として授業補助を担当させることにより、実習生が児童生徒の実態を把握することが可能となります。

## 授業見学の際の視点

### 視点を焦点化する

実習生には、どのような視点にそって授業を見るのかを焦点化させ、授業見学に臨ませることが大切です。

### 授業者だけでなく児童生徒の動きに着目させる

また、授業見学というと、授業者の動きのみに注目しがちです。確かに、実際の動きを目の当たりにする中で、指導技術の面で多くのことを学ぶことができます。しかし、それだけでは授業の一面しか見ていないこととなります。授業のもう一方の当事者である児童生徒も同じように、あるいはそれ以上に見なければなりません。

児童生徒の活動は、授業者の働きかけの何を契機として、いつ、どのように変容していったか、つまり、教師と児童生徒がいかに関わり、授業が展開したのかを分析的に「見取る」ように指導することが重要です。

以下の表は、実習生が「何について、どのような視点で見たらよいか」を授業の経過にそってまとめた例です。

見学の視点		教師の動き	児童生徒の動き
学習課題の妥当性		◇どのような内容を、どのような方法で提示したのか。それは、学習指導要領のどの部分にあたるのか。	◆学習課題を、教師が意図したように理解し、受け止めたか。(難しすぎたり、簡単すぎたりしていないか)
学習への動機付け		◇児童生徒の興味関心から、課題探求への意欲へと発展させることのできる導入であったか。	◆「やらされる」学習ではなく「やる」学習へと向かう姿勢であったか。
思考の場の設定		◇思考(じっくり考える)の場面を、どこで、どのように用意したか。思考を働かせるための手がかりとなる資料を提示したか。またその提示の方法、タイミングは適切であったか。思考の時間は十分保障されていたか。	◆教師の問いかけを正確に理解し、進んで考えようとしていたか。
形成的評価(学習過程での評価)の方法と結果の活用		◇児童生徒の意見に対する価値付けを行うなど、学習過程での評価がきちんとなされていたか。また、そのことが、児童生徒の学習意欲を向上させることにつながっていたか。 ◇学習指導案に縛られない柔軟な修正や対応がなされていたか。	◆納得がいかなかったり、うなづいたりという表情の変化が見られたか。 ◆自由に質問・発言できる雰囲気であったか。
主眼の達成状況		◇授業において教師が意図した主眼が達成できたか。 ◇主眼達成の上で、教材の選択は適切であったか。	◆教師がイメージする主眼達成の姿(発言内容、行動)が児童生徒に見られるか。
授業全般を通して	発問の質と量	◇児童生徒の思考との関係に十分な配慮がされて、計算され、吟味された発問であったか。	
	教育技術	◇板書は、丁寧であったか、児童生徒の思考に沿って構造化されたものであったか。 ◇教材・教具が効果的に活用されていたか。 ◇身振り・手振りなどの所作、話し方、声の大きさ・抑揚、表情、立ち位置や教室内の移動などは適切であったか。	
	学習規律		◆特に「話す、聞く」場面でのルールが守られていたか。



様式集・資料集：授業見学記録様式(例) <P93>

## 授業見学における留意点

### □ 見学者の立ち位置の指示

前述したとおり、授業見学では、教師の指導技術とともに児童生徒の姿をじっくりと「見取る」よう指導することが重要です。その際、見学者の立ち位置としては、教室の後ろや横が妥当と思われます。前の方から参観した方が、児童生徒の表情やしぐさをとらえやすいと言えますが、児童生徒の気が散る可能性もあります。

### □ 児童生徒への関わり方の明確な指示

また、子どもとの距離の取り方も大切です。例えば、子どもの記述を確認したい時や子どもが話し合い活動を行っている時など、見学者が子どもからの質問を受けたり、それに対してアドバイスをしたりすることがあります。これは、実習期間が短い中、実習生が児童生徒との関係を深めていく上でよい機会であると言えます。

しかし、必要以上に関わることで、授業の流れが授業者の意図したものと違ったものになっていくこともあります。児童生徒の思考の道筋やありのままの姿が見えなくなることで、授業者の手立ての有効性も見えなくなります。実習生には、時や場合にに応じて、傍観する立場に徹するのか、またはT T形式のT 2のような役割を担うのか、明確に区別して見学に当たるよう指導することが大切です。

### □ 見学記録の作成

見学記録は、なるべく詳細に記す方が、その後の授業研究会においても有益な情報源として機能します。しかしながら、記録をとること自体が目的化してしまうと、授業の本質を見誤ってしまいます。視点に沿って見るべき点については克明に記録する、そうでない点は概要を記すといった柔軟性が求められます。



### Level Up! 学習規律のある授業をつくる

授業見学では、授業のテクニックを学ぶという視点とともに、授業を受ける上での「約束事」がどのように設定されているのかを理解することも大切です。以下のような点について、児童生徒の動きから、実習生が見取ることができるよう指導することも重要です。

例)

- ・ 始業・終業時の挨拶の仕方
- ・ 始業前着席、机上の準備等の授業へ向かう「心構え」
- ・ 発表時の挙手や起立する際の椅子の取扱い等の所作
- ・ 他者を意識した発表の仕方等、集団づくりに関する約束事
- ・ 発表を聞く態度に関する約束事
- ・ グループ学習における話し合い活動の方法等に関する約束事
- ・ 忘れ物の報告や対処の方法

## 2 教材研究を指導する際のポイント

授業における指導技術は、授業を積み重ね、経験を積む中で向上していくものですが、教育実習では、どのように考え、どのように組み立てていけば授業が構成できるかを、繰り返し指導することにより、授業づくりの基本をしっかりと身に付けさせたいところです。

このため、実地授業の実施に際しては、毎回、学習指導案を作成することにより授業を構成する力を身に付けさせることが重要です。

一方で、授業づくりの方法や教員が日頃の授業の中で自然に用いている指導のノウハウを理解することは、学校で教えた経験のない実習生にとっては、容易なことではありません。

そこで、いきなり学習指導案を作成させるのではなく、次に示す視点で、授業づくりについての講義を行ったり、実習生が担当する授業について意見交換を行った後に、学習指導案の作成に取り組むなどの工夫をすることにより、効果的・効率的な指導が行えます。

### 何を教えるのか＝目標分析

#### 【ねらいの明確化】

- この授業で教えなければならないことは何か……………
- 教科等でねらいを実現した児童生徒はどんな姿か……………

目 標・教材観

実習生に対して、「この授業で教えなければならないことは何か」、すなわち学習目標や学習内容を常に意識して教材研究等に取り組みさせます。

その際、教科書をしっかりと読み込ませることにより、学習目標や学習内容をつかませることも必要です。

なお、教科書は「学習指導要領」及び「各教科の学習指導要領解説」に基づいて作られており、「学習指導要領」等には、各教科等の目標や内容の基準が示されています。そこで、「学習指導要領」等に立ち返り、学習目標や学習内容を把握するという経験も実習生には積ませたいものです。その他、「学習指導要領」をいかに読み解いて授業を構想するかは、教師の裁量に任されており、つまり、自分が興味をもっていることと、学習指導要領に示された学習内容とのつながりを見極めることができれば、それを授業で使うことは有効であることを教えておく必要があります。



#### 注意！ 木を見て森を見ず

学習内容に対して、教師の思い入れがあるかどうかは、授業の出来を左右する要因の一つではあります。しかし、教師が自分の興味のおもむくままに、「教えたこと」を教えてしまうという、教師の興味関心が優先されて、本来、「教えなければならないこと」が、授業で扱われないような事態が起こってはいけません。

この点について、実習生ではさらにこの傾向が強くなります。授業の「楽しさ」をはき違えてしまい、突拍子もない授業展開を提案してくる場合があります。中には、教材に対する斬新な切り口に教師が驚かされることもあります。概して子どもが向かっていくべきところが見えないといったパターンが多いようです。

実習生のアイデアを生かしながらも、些細な内容にとらわれ、肝心の授業のねらいから外れないよう、学習指導案を立案する段階で、しっかりと指導しておく必要があります。

## 誰に教えるのか＝児童生徒分析

### 【実態把握】

- これまでに、どのような学習経験をしているか……………
- 日常生活においてどのような経験をしているか……………
- どのような姿が期待できるか……………

児童観・教材観

実習生に授業を構想させる際、次にポイントとなることは、児童生徒がどのようなレディネス（学習に必要な状態が整っている状態）をもっているかを把握させることです。具体的には、次の視点で児童生徒の実態を把握させる必要があります。

#### （学習内容に関すること）

- ・小学校や中学校の時に、どのような学習をしてきたのか。
- ・これから教えようとする学習内容に関連する知識をどの程度もち合わせているのか。
- ・授業で取り上げようとしている具体的な素材に対して興味・関心をもっているか。
- ・世の中で起こっている事件や出来事の中で興味・関心をもっているものは何か。  
…など

#### （授業態度に関すること）

- ・発表をよくするクラスか、静かなクラスか。
- ・授業に対する集中力が持続するクラスか、注意が散漫になりやすいクラスか。
- ・自分の担当する教科に対して、興味をもっているクラスか。
- ・学校の活動の中での最大の関心事は何か。  
…など

とにかく、授業がしやすいクラスであるかどうかといった、授業態度に関する情報に関心が向きがちですが、教えるべきことをきちんと教える授業のためには、むしろ、学習内容に関する児童生徒の実態をつかませることが重要です。しかし、期間が限定されている教育実習では、実態を把握することは難しい場合が多いものです。

授業見学を通して把握したり、事前に指導担当教員や学級担任が、差し支えのない範囲内で情報を提供しておくことも必要です。

## 何を通して教えるのか＝教材分析

### 【素材の決定と教材化】

- ねらいを達成するために、効果的な素材は何か……………
- 児童生徒にとっての目的をどのように生み出すか……………

教材観  
指導計画  
教師の働きかけ

教えなければならない学習内容や目標は「学習指導要領」によって定められていますが、ここで何を用いて、どのように教えるかについては、教師の裁量に任されており、実習生にとっても授業を構想する上での生命線であると同時に醍醐味でもあることを伝えたいものです。

学習の目標の達成に向けて、教科書の本文や練習問題、掲載資料、時には教師が自作した資料などを駆使しながら授業を展開していくためには、教材の内容を十分

に研究し、目の前にいる児童生徒に合った方法で提示をしていく必要があります。この準備過程が教材研究です。

「教科書を教える」のではなく、「教科書で教える」という言葉があります。子どもたちにとって新しい知識が詰まっている教科書という「玉手箱」から、教師が個性を生かしながら、何を引き出し、どのような方法で、児童生徒の興味・関心をどう引きつけ持続させるかが、『教科書「で」教える』ことであり、この点についても押さえておく必要があります。

### どのような計画に基づいて教えるのか＝単元構成

教育実習では単発的な授業となりますが、実際の授業は、年間の授業計画を立て、単元単位の授業計画を立て、それに基づいて、1時間の授業についての構想を練ることになります。ここにも、教師の裁量が認められていますが、実際には、それぞれの教科で年間の授業時数が決まっているので、ある単元に極端に時間を割り振ることは現実的ではありません。限られた時間の中で目標を達成するために、指導計画を立てる必要があります。

教育実習では、担当できる授業時数が決まっており、その授業時数に合わせて、授業を行うこととなりますが、実習期間中に査定授業などの場面で一度は学習指導案（総案）を作成させ、単元構成についても指導しておく必要があります。

## 授業展開のイメージ

何を、誰に、何を通して、どのようにして、どのような計画で教えるのか、イメージが湧いたら、いよいよ、1時間の授業の構成をイメージさせます。

授業は概ね「導入」「展開」「終末」で構成されますが、それぞれの場面での留意点は次のとおりです。

【授業展開のイメージ】	
○この時間のねらいは何か	主 眼
○導入（例）	学習活動 教師の働きかけ 学習課題
・ 児童生徒の興味・関心をひきつける工夫	
・ 新たな疑問を生み出す工夫	
・ 児童生徒にとってのこの授業の目的	
・ 解決方法を探し始める工夫	
○展開（例）	
・ 自分なりに試みることができる工夫	
・ 互いの考えを交流させる工夫	
・ 新たな発見を促す工夫	
○終末（例）	
・ 学び取ったことを整理させる工夫	
・ 生活とのつながりを考えさせる工夫	
・ 学び取ったことよさや自他の学びを価値付ける工夫	
○導入、展開、終末で主体的な姿を引き出す発問の工夫	
○提示物や教具等決定	
【評価方法】	評 価
・ どのような姿になっていけばよいか	
・ どのように確かめるか	



## 3 学習指導案の作成

### 学習指導案作成の意義

学習指導案は、授業者が授業を行う上で必要な設計図もしくは授業者の「作戦」を紙面上に表したものであり、学習指導案の作成に際し、実習生に作成の意義や役割について理解させることが大切です。

指導案を作成することの意義や役割には、次のようなものがあります。

- ① 立案することにより、目の前の児童生徒の実態に応じた授業を構想する上で足りない部分を明らかにし、単元構想、授業構想を固めるとともに、成果や課題を明確にすることができる。
- ② 授業の流れや発問を言語化する中で、適切な問いや言葉の吟味を行う。
- ③ 児童生徒がどのような発言をするかを想定して書くことによって、実際の授業での教師の対応がスムーズに行われるとともに、教材化や児童生徒の観察の視点を身に付ける。
- ④ 教師間で学習指導に関する情報を共有し、他の教師に、授業者の意図を理解してもらおう。

このうち、意外と忘れられがちなのが④です。たまに、読み手の存在が考慮されていない指導案を目にすることがあります。そこには、授業者の頭の中で完結したストーリーがひたすら綴られており、授業者以外の者が読んでも授業のイメージが伝わってこないのです。実習生には、誰が読んでも授業の流れや児童生徒の姿がイメージできるように書かれるべきであるという点を、十分におさえておく必要があります。

指導案は、その授業者の授業観や教材観を如実にとらえることができます。実習生自身が理想とする授業がどのようなものなのかを意識させながら作成させることが大切です。

また、「学習指導案」の「案」とは、あくまでも事前の計画であり、目の前の児童生徒と教師の対話を通して営まれるのが授業であるということを表す名称です。計画は綿密に立て、実際の授業では、目の前の児童生徒の様子を細やかに観察し、適切な指導を行うという教師のスタンスについても、ぜひ指導したいところです。

#### <学習指導案の種類>

**総案** ○児童観、教材観、指導観や単元の目標など幅広く授業の計画を示した指導案です。教育委員会の訪問等、校外の人を対象とした研究授業などで使用します。

#### **略案（本時案）**

○当該1時間の授業の計画を示した指導案です。校内の研究授業などで使用します。

**教育実習で身に付けた、学習指導案の正しい作成スキルは、教職生活の大きな財産となります。**

## 学習指導案の作成方法

### □ 総案の書き方

学習指導案は、通常、単元や題材（以下「単元」）など、内容や目標のひとまとまりごとに用意します。そのひとまとまりの必要性や指導内容、計画等を述べたものが総案と呼ばれるものです。

通常の授業では、本時案のみというのが一般的ですが、後で述べるように、総案が児童生徒の実態を踏まえて記されるものである以上、実習期間中においては、査定授業の際など、少なくとも1回は総案を作成する機会があることが望ましいです。

### ■ 単元名（題材名）

単元全体のタイトルにあたるものです。この単元で、どのような学習内容を扱うのか、また、どのような学習活動を行うのかがイメージできるように端的に表現します。

### ■ 単元構成の意図

授業者がどのような意図で単元を構成したかを説明する部分です。展開（構造）及び内容は以下のようにになると考えられます。

展開(構造)	内 容	一般的な呼び方
(この単元は)	〇〇を理解すること（〇〇ができるようになること）をねらう。	ア 単元のねらい
(そのために)	□□という教材や題材を用意した。	イ 教材観
(なぜなら)	学習指導要領等に示された目標や内容に到達させるために、このような特徴があるからである。	(教材選択の根拠) (教材の価値、位置付け)
(そして)	児童生徒はこの単元で到達すべき目標や内容に対してこのような状態にある。（もっている知識や技能、目標や内容からの隔たり）	ウ 児童生徒観 (児童生徒のレディネス)
そこで	そのような児童生徒に対して、教師はこのような具体的な工夫を考えた。	エ 指導観 (指導や展開の工夫)

#### ア 単元のねらい

単元全体を通して、理解させたい学習内容や、身に付けさせたい技能などを簡潔に表現します。記述内容は、「学習指導要領」と整合性をとる必要があります。

#### イ 児童生徒観

実際に授業を行う対象である児童生徒が、どのようなレディネスをもっているのかを分析したものを記述します。クラスの雰囲気や児童生徒の行動傾向を書くのではなく、単元で取り扱う学習内容や教材に関して、児童生徒がどのような知識を有しており、どのような関心を抱いているかを書く必要があります。

## ウ 教材観

この単元で取り上げる中心的な素材や事象、出来事などについて、授業者が分析したものを記述します。単に教材の解説を行うのではなく、授業者が、どのような視点から教材をとらえているかを表現する必要があります。

## エ 指導観

教材観や、児童生徒観を踏まえて、教師がどのように指導を展開していくかを述べます。それぞれの教師の個性や工夫を最も表現しやすいのが、この指導観です。児童生徒に提示する学習課題や中心となる学習活動、そして単元の展開のさせ方についての工夫を述べることになります。

### 単元構成表

単元全体の学習の流れを表形式で表現します。一時間ごとに授業の概要を記述する方法と、学習内容や学習活動のまとめり（次）で表現する方法があります。

(単元構成表)

時（次）	ア 学習内容・活動	イ 主 眼	ウ 指導上の留意点

## ア 学習内容・活動

表のこの部分を縦方向に読み進めることで、単元全体の展開を構造的にとらえやすくするためのものです。一時間（一次）ごとの主な学習内容もしくは学習活動を端的に述べます。

## イ 主眼

一時間の授業の主な学習活動と、理解させたい学習内容や獲得させたい技能を簡潔に述べます。通常、学習指導案は教師を主格として述べますが、この主眼（ねらい）については、児童生徒の立場から述べます。

- ・（学習活動）～を通して、（学習内容）～を理解できる。
- ・（学習活動）～を通して、（学習方法）～を身に付けることができる。

## ウ 指導上の留意点

それぞれの時間の学習活動を充実させるために、教師が工夫する点などが簡潔に表現されます。記載される内容としては次のようなものが例としてあげられます。

- ・ 学習活動を充実させるための主な資料
- ・ 学習効果を高めるための活動の工夫
- ・ 児童生徒の活動を評価する際の視点
- ・ 学習効果を高めるための学習集団の工夫 など

## □ 本時案の書き方

### ① 本時設定の意図

本時を設定した授業者の意図が説明されます。具体的には次のような内容が記述されます。

- ・本時のねらい
- ・前時までの活動によって児童生徒が習得した知識や技能。これから習得すべきもの
- ・授業の展開の工夫
- ・次の時間へのつなぎのための工夫

### ② 主眼

単元構成表内の本時のものを述べます。

### ③ 学習の展開

#### ア 学習活動

教師から児童生徒への具体的な働きかけ（発問・指示等）とその働きかけに対する児童生徒の反応を述べます。児童生徒の視点で、できる限り多様な反応を予想しておくことが思考の流れを断ち切らない授業の展開を考える上で重要です。

#### イ 学習内容

授業の展開における学習内容・活動のいわばタイトル（項目）を端的に述べます。学習過程の展開がとらえやすいように、体言止めで示します。

#### ウ 指導上の留意点

予想される児童生徒の反応に対し、教師がどのような手だてを講じるかを中心に具体的に記述します。ここに記載される内容は以下のように多種多様です。

- ・児童生徒の発言や活動に対する教師の対応
- ・児童生徒の発言に対する評価の視点
- ・次に展開させるために必要な指示や工夫
- ・児童生徒の学習活動に対する支援の方法
- ・授業の中で取り扱う資料の活用方法
- ・授業の中で獲得させる学習内容や方法
- ・授業を新たな展開に導くための手だて など



参考資料：学習指導案様式(例) <P94>

## 学習指導案の検討

実地授業の実施に際しては、実習生に授業を構成する力を身に付けさせるため、毎時間ごとに学習指導案を作成させることが重要であることは既に述べましたが、指導担当教員は、学習指導案を作成させるだけでなく、その内容を実習生と十分に検討し、的確な指導助言を行い、授業に臨ませることが重要です。

### 〔学習指導案検討の視点（例）〕

- 学習指導要領を正しく理解し、適切な目標、学習内容を設定しているか
- 単元で取り扱う学習内容や教材に関する児童生徒の状況を適切に把握しており、授業を通して身に付けさせる内容等が明確になっているか
- 教材の解釈は適切か
- 単元全体の構成を的確に把握して本時の授業を組み立てているか
- 学習活動の内容に応じて、効果的な授業形態を選択しているか
- 導入、学習展開、終末の時間配分等は適切か
- 児童生徒の興味・関心・意欲を引き出したり、思考を深めたりする効果的な指示や発問が設定されているか（導入の発問、展開の発問、終末の発問を使い分けているか）
- 評価規準、評価方法等が作成されており、なおかつ適切か
- 目標が十分に達成できていない児童生徒に対する手立てが明確になっているか など

教育実習では、多くの場合、指導担当教員から実施する授業を指示され、その1時間の授業を実施することとなり、指導担当教員の指導もその1時間の授業に目が行きがちです。

一方で、教師には、年間を通した指導計画や、単元の中の一つ一つの授業をどのように展開していくかという単元を構成する力も求められます。

単元構成については、教育実習の場合、指導担当教員の指示によるところが多いと思われませんが、学習指導案の作成に際して、この点についても十分に説明しておく必要があります。

また、学習指導案だけでなく、当該授業の板書計画についての検討も必要です。

児童生徒にとっては、貴重な授業です。教科書の担当する箇所だけを実習生に示して、事前に何の指導もないまま実地授業に臨ませるようなことだけは避けなければなりません。

# 小学校指導事例(総案)

## 第1学年〇組 音楽科学習指導案

- 国語科、社会科、算数科、理科、生活科、体育科、総合的な学習の時間、外国語活動の場合は「単元」
- 音楽科、図画工作科、家庭科の場合は「題材」
- 道徳の場合は「主題」

平成〇年〇月〇日 (〇) 第〇校時  
指導者 ○ ○ ○ ○

### 1 題材 おんがくから そうぞう して ～鑑賞～

中心となる教材、領域、学習内容などを～ ～で示すこともある

### 2 指導の立場

児童は、「うたを みつけて たのしもう」で、挿絵と自分の知っている曲の歌詞を結び付け、歌詞の表す場面に合わせて、身振りや手振りを交えながら表現している。このような児童が、音楽の特徴を聴き取り、想像し、表現ができれば、一人ひとりが聴き取って感じたことを伝え合ったり、自分が見つけた特徴のよさに気付くことができるであろう。

**児童観**  
①本単元につながる、これまでの児童の学習経験  
②学習経験やその力を身に付けた子どもの姿

本題材は、鑑賞曲の特徴を聴き取って、体の動きで表し、互いの動きを比べたり、つないだりしながら、音楽全体を子どもなりにとらえることをねらいとするものである。ここでは、音楽の特徴と、具体的な場面を結び付け、物語の展開を大切にする。そこで、歌詞や映像をもとに、登場人物に合わせた動きをしたり、具体的な動きで表したりする活動を設定する。児童が映像をふくらませ、楽曲全体の面白さを感じ取っていくことで、そこで、指導にあたっては、次の点に留意したい。

**教材観**  
①本単元のねらい  
②ねらいを実現するために大切になること  
③その大切なことを実現するために設定する活動  
④設定した活動を通して、ねらいを実現する児童の具体的な姿

○ 導入では、ディズニー映画「ファンタジア」で用いられている、デュカス作曲「魔法使いの弟子」を映像とともに鑑賞させる。物語を想起させた後に、部分ごとの音楽を聴かせ、どの場面の音楽かを考えさせ、その理由を問う。そうすることで、楽曲を特徴付けている要素から感じ取ったことを具体的に言語化できるようにする。

**指導観**  
①本単元を通して、特徴的な指導の工夫点(実習では、単元の中の1時間のみ授業を行うことが多いので、本時の導入、展開、終末ごとの工夫点に限定して記述することもあるでしょう)  
②具体的な工夫と実現したい子どもの姿

○ 展開では、カーナウ作曲「サーカスの一日」を鑑賞させ、登場する人や動物の様子を問う。「魔法使いの弟子」で学んだ動きを生かして、想像をふくらませて様子を体の動きで表現し、曲ごとの特徴をとらえることができるようにする。

○ 終末では、サーカスの様々な場面が織り込まれた、終曲「Grand Finale」を提示する。それまでの音楽と共通する部分を聴き取らせることを通して、音楽全体の構造や、構造から生まれる面白さを子どもなりに味わうことができるようにする。

### 3 目標

- (1) 物語の場面につながる楽曲の特徴に関心を持ちながら、鑑賞に取り組もうとすることができるようにする。
- (2) 曲ごとに想像した場面をもとにかかわり合ったり、楽曲のつながりに関連付けながら、つながりによって楽曲のよさに気付いて、味わうことができるようにする。

**目標**  
①教師側からの目標として(どんな学習活動を通して、どのようなことをできるようにしたいか)  
②評価の観点( )を明確に(各教科等の評価の観点を明記)※「新学習指導要領実施上の手引き」  
◎目標を明確にするために、評価規準表を作成することが望ましい。

### 4 指導計画 (約2時間)

- 第一次 「さんぽ」の速度の変化に合わせて歩く・・・①  
第二次 「サーカスの一日」から登場する人や動物の様子を想像する・・・① (本時)

本時案 ー第二次・1時分ー

主眼

- 1 主眼 「サーカスの一日」の児童側からの目標として記述します。「どんな学習活動を通して」、「どのようなことをできるようになるのか」を明確にすることが重要です。
- 2 準備 鑑賞用映像、鑑賞用音源、場面絵 など
- 3 学習の展開

学習活動・学習内容（児童の反応）	教師の働きかけ
<p><b>導入</b></p> <p>1 ディズニー映画「ファンタジア」から「魔法使いの弟子」を鑑賞する。</p> <p>○大（話し合う、紹介する、記述する等）</p> <p>○キーマウスが、魔法使いからお尻を叩かれたところだ</p> <p>○ジャーン、ジャーンという音は魔法使いが水を跳ね返している</p> <p>・場面を表す音楽の特徴</p>	<p>T 音楽のどこから想像できたか</p> <p>○「…発問 「はい」や「いいえ」で答えられるようなものではなく、「なぜだろう」、「どうすればいいだろう」といった疑問を抱かせるような言葉かけを工夫させることが重要です。」</p> <p>○部分ごとの音楽から場面を思い浮かべた理由を問い、音楽の特徴を理由にした発言を価値付けることで、音楽を特徴付けている要素を意識して聴くことができるようにする</p> <p><b>提示物</b> 学習を効果的に進めるための提示物等</p>
<p><b>展開</b></p> <p>2 「サーカスの一日」それぞれの場面を鑑賞する。</p> <p>○ゆっくり揺れているような音楽から、空中ブランコの様子がわかる。</p> <p>○低い音は、大きな動物の足音だ</p> <p>・人や動物の動きや様子が想像できる音楽の特徴</p>	<p>T 場面がかわったのは、音楽のどこからかわるのか</p> <p>○合わせることで、音楽の周囲に配置したり、音楽に合わせてサーカスの動きをしたりさせ、互いが聴き取った音楽の特徴を視覚的にとらえられるようにする</p> <p>○好きな場面の音楽から想像したことをカードに記述し、場面ごとに掲示することで、同じ場面の音楽から聴き取った音楽の特徴を比較できるようにする</p> <p><b>教師の手だて</b> 学習内容を身に付けるために教師が行う具体的な工夫を記述します。「方法（～すること）」＋「子どもの姿（できるようにする）」という記述の仕方を定着させることが重要です。</p>
<p><b>終末</b></p> <p>3 終曲（おわりの あいさつ）から、登場する人や動物を表す。</p> <p>○人間大砲はとてもドキドキしたよ、ありがとう</p> <p>・終曲から聴き取る、それまでの音楽の特徴</p>	<p>T サーカスに登場した人や動物にどんなことを言ってあげたいか</p> <p>○各場面で想像したことを生かして、かける言葉を工夫している発言を価値付け、曲同士のつながりを意識して味わうことができるようにする</p> <p>(評) 人や動物の動きに通じる音楽の特徴に気付くことができているか、カードの記述や活動の様子を振り返る。</p> <p><b>評価</b> 本時の主眼の達成状況を評価する方法を記述します。「主眼を達成した児童の姿」＋「何から判断するか（活動の様子、発言、記述等）」を明確にさせることが重要です。 ※十分に達成できていない場合は、その対策を次の手だてに記述させることもできます。</p>

平成〇年〇月〇日（〇）第〇校時  
指導者 〇 〇 〇 〇

1 単 元 市場の働きと経済 ～適正な価格とは何か～

2 単元構成の意図

本単元は、身近な経済活動がどのような経済の基本的のか、具体的な経済的事象から読み解くことをねらいとし、需給関係によって成り立つ市場経済の原理である事象は複雑な様相を呈しており、市場経済の原理で説明背景には、情報化やグローバル化の進展といった現代社

それゆえ、市場経済の原理を学ぶことは、経済活動の仕組

生徒は、メディア等から商品に関する様々な情報を得る。また、地理的分野においては、野菜の促成栽培の学

単元構成にあたっては、ものやサービスの価格に焦点において常に価格と向き合っている。そこで、「適正なし、経済活動の流れにおける価格変動の要因を究明しな活用を図っていく。その際、前単元で学習した「効率とい。市場経済においては、最適な資源配分のために効率性が重視されるが、そのことで不利

3 目 標

「適正な価格とは何か」という課題に対してさまざまな身近な消費生活の背後にある経済の基本的な考え方や経済の視点から現代社会の特色を捉え直すことができる

4 指導計画（総時数 9時間）

時	学習内容・活動	主 眼	指 導 上 の 留 意 点
1	単元の課題の設定	生活の中にあるさまざまな価格の違いを見つける活動を通して、「適正な価格とは何か」という課題に対する追究意欲を高めることができる。	・同一商品でも時期や場所によって価格が異なるケースを示し、価格の変動に興味をもたせる。
2	市場経済の仕組み	需給曲線を分析する活動を通して、価格と需給量の関係について理解することができる。	・ネットオークションを事例として取り上げ、希少性の原理について理解を促す。
5	企業競争の役割	市場での独占状態が企業や消費者にもたらす影響について考察する活動を通して、市場経済での競争の重要性について理解することができる。	・独占禁止法や公共料金に言及することで、経済主体としての政府の役割を示唆する。
6	景気変動の企業や消費者への影響（本時 6/9）	牛井大手企業の経営者の立場に立ち、値引き競争参入への是非について考察する活動を通して、不況下において過度な低価格競争が続くことは労働者の賃金・消費者の購買力の低下を招き、不況をさらに長引かせるということを理解できる。	・低価格競争にかかわる企業経営者のストーリーを追体験する中で、不況下における低価格競争が持続可能なビジネスなのか、消費者（≒労働者）の立場ともつなげて判断させる。
9	単元の課題に対するまとめ	「適正な価格とは何か」という課題に対して、生産・流通業者や消費者、企業や従業員などの立場に立って自らの考えを説明することができる。	・適正な価格とは、消費者が求める品質や機能に見合っており、かつ企業努力によって無駄な経費が削減されながらも企業が成長する上での利益が十分に見込まれた価格であることに気付かせる。

教材観

- ①本単元のねらい
- ②ねらいを実現するために大切になること
- ③その大切なことを実現するために設定する活動
- ④設定した活動を通して、ねらいを実現する生徒の具体的な姿

生徒観

- ①本単元につながる、これまでの生徒の学習経験
- ②学習経験を踏まえ、身に付けさせたい力や、そのような力を身に付けた子どもの姿

指導観

- ①本単元を通した、特徴的な指導の工夫点（実習では、単元の中の1時間のみ授業を行うことが多いので、本時の導入、展開、終末ことの工夫点に限定して記述することもあるでしょう）
- ②具体的な工夫と実現したい子どもの姿

目標

- ①教師側からの目標として  
（どんな学習活動を通して、どのようなことをできるようにしたいか）
- ②評価の観点（ ）を明確に  
（各教科等の評価の観点を明記）  
※「新学習指導要領実施上の手引き」
- ◎目標を明確にするために、評価規準表を作成することが望ましい。



## 5 本 時 案

- (1) 教材名 低価格競争
- (2) 主 眼 牛井大手企業の経営者の立場に立ち、値引き競争参入への是非について考察する活動を通して、不況下において過度な低価格競争が続くことは労働者の賃金・消費者の購買力の低下を招き、不況をさらに長引かせるということを理解できる。
- (3) 準 備 コンピュータ プロジェクタ
- (4) 学習の展開

	学習内容	学習活動	指導上の留意点
導入	1 牛井の値下げ競争	○牛井大手3社の価格競争の経緯（12月～3月）を示す。 資料提示の仕方	・ Y社が、S社やM社の12月の値下げに追従しなかったことに気付かせる。
展開	2 Y社の値下げ競争不参入の理由 予想される生徒の発言内容	Y社が値下げを行わなかったのは、なぜか ・ 他社の売りの動向をうかがう ・ ブランドに傷がつく ・ 低価格にすると採算がとれない ○12月～3月にかけての3社の客数や販売額の推移を示す。 ○4月の各社大幅値下げ以降の価格競争の動向をスライドで示す。 ・ 他社の更なる値下げで、Y社の値下げが功を奏しなかったことを知る。	教師の発問内容 ・ 原材料に言及する生徒がいたらY社の牛井の価格の内訳を示し、米国産牛肉が豪州産のものよりコスト 生徒の反応に対する教師の手だて ・ 原材料に言及する意見が出ない場合は、「どこの国の肉を使っているのか」と問いかける。
	3 低価格競争参入についての是非 予想される生徒の反応	Y社の経営者の立場であれば、他店の低価格キャンペーンを受けて、再び牛井の値段を下げるかどうか  <下げる> ・ まずは集客のための値下げが必要 ・ 値下げし、メニューを増やす ・ 米国産牛肉へのこだわりを捨てる ・ 所得の落ち込みで、実際に値下げを歓迎する人が多い <下げない> ・ 実際に下げて効果がなかった ・ 食の安全性の不安がひろがる ・ 米国産に拘り、味で差別化を図る ・ 低価格競争は互いにとって不利益  ・ 消費者と被雇用者が重なることに気付く。	・ 企業経営者の立場で考えさせるが、消費者や被雇用者の視点が垣間見える意見があれば、それを取り上げ、低価格競争なる事象を多面的にとらえさせる。 ・ ファストフードで優先されるのは、味か価格か問う。 ・ 味を落とさないとすれば、どこのコストを削るかという話に導き、人件費削減に着目させる。 ・ 低価格競争の継続は、企業や消費者、被雇用者にとって利益があるのかどうか整理する。
終末	4 低価格競争が長期化することの問題点	低価格競争長期化で困るのは、誰か ・ 資本力のない企業 ・ 雇われている人≒牛井を食べる人	・ 消費者にとっては、商品の価格が下がることはよいことのように思えるが、社会全体として見たり、長期的に見たりすると、国内経済に影をさすことに気付かせる。

